

2015年6月4日に金沢八景キャンパスの礼拝堂の礼拝にて女子短期大学国文科卒業生の  
中村啓子さんが学生達に「言葉の力」についてお話をしてくださいました。



### 中村啓子さんプロフィール

富山県立山町出身。ナレーター、関東学院女子短期大学国文科卒業。NHK/ETV特集、NHK/BSフォーラムなどの番組、NTT時報、番号案内、NTTドコモ留守番サービスなど、生活の中で親しまれている声の主。2008年日本オーディオ協会より「音の匠」に顕彰され、現代標準語の基準となっている。プロのためのナレーション・スクール「OKEIKO」主催。

2015年6月4日(木)に金沢八景キャンパスの礼拝堂にて礼拝がありました。中村啓子さんが「言葉の力」について学生達にお話をしてくださいました。その内容を要約いたします。

聖書の創世記第一章一節～三節には「初めに、神は天地を創造された。……神は言われた。『光あれ。』こうして光があった。」とあります。ここに「言われた」とあるように、神はこの天地を言葉を持って創られました。

私達もまた、私たちの世界を言葉で作っていると言えるでしょう。

「ありがとう」という感謝の言葉を発するか、否定的な言葉を発するかで、自分を巡る世界が違って来るのです。

トップアスリートはマイナスな言葉を発しません。次の壁を越えるために前向きな発言をします。プロゴルファーのタイガー・ウッズはライバルのカップインを祈り、外すことを願わないという有名な話があります。「隣人の幸せを願い、自分の世界を高めて行く」という発想です。

日本で、ツイッター上最も多く使われている言葉は「疲れた」だそうです。

「やる気」は、脳の真ん中にある側座核が働いて脳内物質を分泌することで呼び起こされます。しかし、ここは、何らかの刺激がないと、働かないのです。「疲れた」ではなく、「やるぞ!」という言葉が発してみましょう。

更に、自分が発する言葉が脳に与える影響についてお話ししましょう。脳内の大脳新皮質は、私たちの語る言葉の主語を確認することが出来ますが、大脳旧皮質は、言葉の主語を確認することが出来ません。ですから、人に対して「うざい」などという否定的な言葉を発すると、自分に向けて言われたのと同じダメージを受けてしまうのだそうです。

私は、幼い頃からアナウンサーになりたいと強く願い、出会った人に「アナウンサーになりたい」という言葉を発し続けて来ました。その結果、不思議な方法で協力者が現れ、私の前にナレーターへの道が開けて来ました。しかし、仕事が順風満帆だった39才で突然ガンに罹った私は、「憧れの職業についただけでは満足して死ねない。愛するということを知らなければ」と気づかされ、教会に通うようになりました。そして、今、クリスチャン作家三浦綾子さんの作品の朗読を通して「愛とゆるし」を伝えることをライフワークとしています。

ふりかえると、私の人生をコントロールなさっている神の存在をはっきりと知ることが出来ます。神様は、いつも私たちの存在を喜び、呼んでおられます。

私たちがその存在を喜び、感謝し、良い言葉を語ることが出来ますように。神様が、私たちの心を癒やしてくださり、希望で満たして下さいませよう祈りましょう。